

～100年の森に繋ぐ夢～

対馬市の花 ゲンカイツツジ

対馬市の花として指定されている「ゲンカイツツジ」。

まだ風が冷たい早春の山野に淡いピンクの花を咲かせるその姿は、可憐さと力強さを感じさせてくれます。浅茅湾とゲンカイツツジのコントラストはまさに対馬を語る代名詞ともいえる風景でしょう。

その一方で地域から花の姿が消えつつあり、環境省は生息条件によっては絶滅に移行する可能性があるとしてゲンカイツツジを準絶滅危惧種に指定しています。そこで動き出したのが現代の花咲爺さんとも言える「玄海つつじの森つくろう会（会員85人）」の皆さんです。ゲンカイツツジを増やし、対馬の新しい名所をつくろうと活動して15年、その世話役代表をつとめる長郷 美比古さんに取組や将来の夢を伺いました。



※ゲンカイツツジは高さ2～3メートルの落葉低木。本州（岡山県以西）・九州（九州北部、対馬）・朝鮮半島・済州島が主な自生地。日本では対馬の群生が最大規模で、山野部だけでなく波をかぶるような湾の岩場に咲く姿も特徴的。ピンクの他、まれに白や赤の花も見られる。

15年で2万5千本を植樹 100年計画の森づくり



玄海つつじの森つくり会
世話役代表 長郷 美比古さん
(豊玉町佐保)



～活動の始まり～

「玄海つつじの森つくり会」は島内外の有志で作るボランティアグループです。植樹活動は平成15年に始まりました。かつて見られた浅茅湾に自生するゲンカイツツジが減り始め「このままでは見られなくなってしまう」仲間が同様の危機感を持ったのがきっかけです。原因は、林業が衰退し山の手入れをしなくなり自生地に陽が

当たらなくなったこと。そしてシカやイノシシの被害も考えられます。

私たちが活動の場所に選んだのは、美津島町のあそくベイパーク。もともと自生のゲンカイツツジがあり植樹に適した、もってこいの場所です。地の利も良く観光地づくりとしてもベストです。合併前の旧美津島町のバックアップで、雑木が密生し陽が当たらない山の木々を伐採してもらい、私たちは苗づくりと植樹を担当することに。市民グループと行政が同じ目標に向かえたことが励みになりました。



苗づくりは会員が担当
長郷さんの自宅の裏庭ではゲンカイツツジの苗が所狭しと栽培されています



～まもる・いかす・つなぐ～

これまでほぼ毎年、2000本以上を植樹してきました。苗木は会員が自宅で育て、種まきからおよそ50センチの苗木になるまでに4年ほどかかります。ゲンカイツツジをメインにコバノミツバツツジ、チョウセンヤマツツジなども植え、長い期間ツツジを楽しめるように工夫もしています。あそくベイパークキャンプ場周辺の5ヘクタールの山に2万5千本のツツジを植えることができ、春の花見散策を楽しみにしてくださる方も増えています。

現在、会員は85人。2月に行っている植樹には、一般の方にも参加していただき延数千人がかかわった共同の作品が現在の姿と考えています。

活動の柱は「まもる」「いかす(名所づくり)」「つなぐ(世代間)」。会費は年間100円ですが、計画は100年先を見据えてすすめています。

ゲンカイツツジは間違いなく対馬の花のシンボルです。慎ましく優美で早春の雑木林に咲く風情に惹かれぬ人はいません。だからこそ未来もずっと咲き続けてほしいのです。



2月に行われている植樹風景。会員だけではなく島内外から有志が参加しています。卒業記念や対馬の思い出作りに是非と長郷さん。社会福祉協議会もその思いに共感し、毎年植樹ボランティアを呼びかけています。

福岡市内にゲンカイツツジが嫁入りしました

長郷さんらの心強いサポーターとして森づくりを応援しているのが福岡対馬会。ゲンカイツツジを広くPRしようと昨年25人が会員に仲間入りしました。今年2月には対馬会の呼び掛けに対馬市福岡事務所が協力して、福岡市の舞鶴公園にゲンカイツツジを50本植樹しました。



今年2月18日に行われた植樹には福岡対馬会、玄海つつじの森つくり会、対馬市福岡事務所職員ら30人が参加しました。

あそうベイパークを訪れた

舞鶴公園管理事務所 前所長 松本 伸三郎さん

あそうベイパークに来て、浅茅湾とゲンカイツツジという風景はやはり対馬ならではの実感しています。今回、ゲンカイツツジを舞鶴公園に植えていただき、花暦にまたひとつ花が加わりました。小ぶりで品がある美しい花々、春の訪れを一番に告げる使者として公園の新たな名所になると思っています。今後も交流を深めていきたいですね。

今後30年、50年と続くゲンカイツツジの森づくり活動に私も期待しています。



福岡対馬会 会長 梅野 美實さん はるみ

5年前でしょうか、海からゲンカイツツジを見ようと船で浅茅湾に出たのですが、花がとても少なくなっているのに気づきました。その後、長郷さんたちの活動を知り、私たちも何か協力したいと福岡での植樹を計画しました。島外にもゲンカイツツジを広めることができると期待していますし、福岡に住む私たちが故郷を感じる場所にもなっています。今後は、佐賀県の鳥栖基山にまたがる、かつての対馬藩の飛地である田代領にも植樹を進める計画です。対馬の皆さんと一緒に活動し、島の観光名所づくりをバックアップできればと思っています。

あそうベイパークで花見会

玄海つつじの森つくろう会では毎年3月下旬にあそうベイパークで花見会を行っています。今年も福岡対馬会から「ゲンカイツツジ花見ツアー」と題し21人が来島しました。



遊歩道の両脇にはゲンカイツツジが咲き誇り、参加者はお気に入りの風景を写真に収めたり、長郷さんのガイドを聞きながら花見を楽しんでいました。またこの日はシーカヤックに乗り海からつつじを眺める方の姿もありました。



「みっかび」の歴史

長郷さんが子どもの頃「みっかび（旧暦の3月3日）」や「花ちらし」と呼ばれるゲンカイツツジの花見が行われていました。重箱にごちそうを詰めてもらい子どもだけで出かけていたとか。以前は、どこの地域にもゲンカイツツジの名所があり、お彼岸には墓前にさすなど人々の生活に密着した花だったようです。

つばみ

～花咲く未来へ～

対馬市は浅茅湾観光の一環としてあそうベイパークのゲンカイツツジ公園構想を計画しています。浅茅湾とゲンカイツツジの組み合わせが観光の目玉になろうとしているのです。若い世代や子ども達に対馬を知ってもらうための勉強会、種まきや植樹などのイベントなど今後の展開を考えているところです。

夢は広がり、10年後には全国つつじサミットも開催したいと思っています。

まだまだ活動は入り口です。100年後の森づくりを夢見て、私たちは絶やすことなく手入れを続けていきます。



玄海つつじの森つくろう会の皆さん

100年先も…

対馬に春を告げるゲンカイツツジのピンク、桜並木のほのかに淡い色、5月には真っ白なヒトツバタゴ。対馬の春の花は競い合うように咲き誇り、見る人の目を楽しませてくれます。100年先の子もたちに対馬の風景を見せるために守ることも今を生きる私たちの役目ではないでしょうか。

【連絡先】「玄海つつじの森つくろう会」の活動に興味のある方はこちらへ

長郷 美比古さん ☎0920(58)0941 ※植樹への参加も大歓迎です。